

県議会と県民との意見交換会「あなたのそばで県議会（南薩地域）」（概要）

開催日時 平成24年11月25日(日) 13:00~15:00

開催場所 指宿市中央公民館

参加者 一般県民27名 県議会：金子議長他14名

内容 議会活動等説明，意見交換（質疑応答等は以下のとおり）

○ 意見交換で出された質疑の内容

県民A

国道226号線の、指宿の駅前から鹿児島の方に行く今泉までだが、道路が狭くて右折する車等で混みあって困っている。歩道もその間が狭いため、通学道路にもかかわらず、自転車等で通ったらとても危険な状態だと思う。拡幅する考えはないのか。

また、毎年私の住む池田湖のほとりの集落は危険区域が多いところで、もし崖崩れがあったりしたら、孤立するような集落だ。それで警察の方から危険箇所の点検に来た際にそういう話をしたところ、緊急的な場合には、ヘリを出すからと言われたが、そのヘリの発着場を確保したり整地したりする、そういうような予算というのは県から出ないものか。

また、市道の場合に、危険な箇所に防災網を張ったり防災工事を行う場合に、県から補助があるか。

(小園議員)

国道226号線は、もともと県道が国道に昇格したという歴史的な経緯があり、古い国道ではないかと思う。それでご承知のように平川まで現在4車線化の工事が行われており、来年供用される事になっている。部分的に、今泉のところは池田湖の方に右折するレーンがなくて、車が渋滞している現状があるので、その部分を6億かけて国の方で、今事業を行っているところである。それから通学路にもなっているので、いま指宿市を中心に、あの箇所について整備の検討に入っており、地権者の方にも御理解いただかないといけないので、そういった作業等を進めていると聞いているので御理解いただきたい。

ドクターヘリの発着場整備の補助等について、県からの補助なのか指宿市からの補助なのかということは、また相談させていただきたいと思っているが、ドクターヘリが運行してから指宿市に1号機が来た。指宿市の利用者が多くて、多くの方が助かっていると思っているが、尾下地区にも必要じゃないかと思うので、指宿市とも相談させていただきながら、今後も対応させていただきたい。

(下鶴議員)

ドクターヘリの発着場の整備に対する県からの補助は、今年度の予算が始まる段階で、県から(奄美地域の)各市町村に対して補助の希望はないのか手を挙げてもらった事があると聞いている。その要望で上がったのが、徳之島の伊仙と、沖永良部の和泊か知名のどちらかであると記憶している。

(小園議員)

補助事業には、地すべりや急傾斜の補助事業等もあるので、また具体的な箇所について相談を受けたいと思う。

県民B

消防の広域化の問題について、消防組合は、現在南薩地区では、枕崎市、南さつま市、南九州市川辺町・知覧町で南薩地区消防組合を、指宿市と南九州市顛娃町で指宿地区消防組合を作っている。

それぞれ、医師会と連携し、精一杯努力している。今回、南九州市の方から提案があって、川辺町・知覧町がその南薩地区消防組合をやめて、指宿市と南九州市だけの2市の広域化を進めるという話があるが、県が進める広域化とは、南薩4市であれば理解が出来るが、現在ある3市をやめて2市にすることに対する県の考え方をお聞きしたい。

(中村議員)

もともと消防広域化というのは、国の方針で30万人単位で広域化を進めるという方針が出て、それに基づいて鹿児島県も5地域振興局2支庁単位、本土では鹿児島、南薩、北薩、始良、大隅というのが地域振興局、そして大島支庁、熊毛支庁で7つの消防本部を作るという方針を立てて進めてきた。

南薩は平成22年(2月)に、消防の広域化運営協議会が設置され進めていたが、本部が決まらずに、最終的には不調に終わり、その運営委員会は平成23年7月31日に解散した。その後、南薩では南九州市と指宿市が協議会を作ったと聞いている。

今月、総務委員会で視察をさせていただいた。

その中で議論されたのは、指宿市に本部を置いて、南九州市顛娃町に将来消防署を作り、分遣が4つという体制の話聞いた。

あくまでも県は、方針は出すが、その地域で協議会を作って進めていただくというスタンスで進めている。今回、南九州市と指宿市が協議会を作って、方向としてはそういうことでまとまりつつあると聞いている。

広域化の問題で30万人単位が本当にいいのかという、私自身の疑問はあるが、そういう国の方針に基づいて県としては、本土5、離島2という本部体制の方針を出しているが、それが不調に終わったところは、自主的に進めてもらいたいと、そういう方向で進んでいると理解している。

(柚木議員)

地元のことであるので、若干力も入ったり、意見も入れて質問に対して答えたい。

まず、県の関与の仕方は、議会と行政では若干違う。私の理解するところでは、広域消防は、県としては最初4市一緒になって広域化するのが望ましいという推進計画を立てた。それに対していろんな経過があり、破綻したり、くつついたりして、現在は、指宿と南九州市で進んでいるという状況だ。

県の関与の仕方は、消防広域化は地域の自主性、自治体の自主性によるという考え方をしている。情報提供はするが、その判断に対しては関与しないという立場だ。

ただ、そもそも広域化とは何かという話だが、広域化することで、デジタル化とは直接関係ないが、初期消防などの消防機能が高まる。つまり人口が多いことで、運営上の低廉化が図れるというのが一つある。それともう一つ、財政上の需要と消防力が高まることがあげられる。

今回の広域行政が、果たしてそういう一番大きな根本的な解決になっているのかといえば、個人的には非常に疑問がある。

今日は、県議会との話し合いであるわけだから、県議会にどうかと聞かれたら、権限上は、自主的に地域が決めることに対してものを言える立場には無いわけだ。

ただ、例えば指宿市と南九州市が合併をすれば、一部事務組合だから、制度上は議決が必要で、また県に組合構成の変更の許可も必要であるので、そういう意味では行政と関わりが出てくる。

その許可をする際には、広域行政化に対して機能は有するのかチェックする必要があるわけで、議会は行政に対するチェック機関なので、その中で申し上げる機会は当然あるだろうと考える。

県民B

現在、南薩消防組合で立派に医師会とも連携し、救急搬送や火災の問題とか、生命と財産を守る問題について問題が無いわけで、私達、川辺町の住民としては、枕崎市、南さつま市との連携の方がいい。

指宿市との合併問題では、はっきり言って地域住民としては生活圏も変わる。

同じ南九州市の中に穎娃町もあり、そちらは指宿市の方が近いわけなので、私達(川辺町)だけの問題ではあるが、できれば一度話し合いをして、うまくいかなかったからこれでやめるというのでなく、時間をかけて、やはりその4市が方針に基づいてやれるような体制作りをやってほしい。

それで、せっかくこういう県議の皆さんと話が出来る機会があったので、我々の考えも聞いていただき、できれば県議会の方でも、指導というのは問題もあると思うが、もう少し時間をおいて、地域住民と話を進めるというような話でもしていただけたら幸いである。

県民C

関連して、先ほど柚木議員からも説明があったが、この一部事務組合の設置等の許可の基準の第4条の3というところで、許認可権でも大事なことは、住民の福祉の増進、事務処理の効率化の見地から規約の変更が著しく不相当であること等の条件で、県議会としての、県としての許認可権があると思う。

消防広域化の件では、南九州市は国道225号線が通っており、この国道は、枕崎市、南九州市、南さつま市の中心を走っているが、11月に川辺高校の通学生を巻き込む交通事故があった。

現在、指宿市と南九州市が広域化を目指しているが、地域的に非常に不均衡な感じがする。また、このままでは南薩地区消防組合が、解散というところまでいくのではないかと考える。

私は、鹿児島県が南薩縦貫道に膨大な資本を投資して枕崎まで5工区の工事をやろうとしているが、投資をする以上は、この南薩縦貫道が最大限生きる行政をしてほしい。

南薩地区消防組合は、今、南九州市と南さつま市と枕崎が入っているが、この地域は、ほとんど南薩縦貫道に沿っているわけで、100パーセント生きると思う。

火事は、年に3市でも10件も起こらない。救急車や救助工作車を必要とするのは、南薩地区消防組合でも、年間3,000件を超えている。毎日10回くらい出動しているのが実態だ。そういう意味で、市民の生命財産を守る立場から、いびつで無い、広域化こそが本当に住民の暮らしを守っている。

だから、この一部組合の設置等の第4条の3を生かして、もう少し県議会とか県が検討していただきたい。

さきほどドクターヘリは、指宿が一番多いという話もありましたが、これは226号線が救急車が走れないから、ドクターヘリでないといけない状況があるからだと思う。

そういう中で縦貫道を生かす(4市による)広域消防を県が提案していることは、ある意味ではベターだと思う。

川辺では、ちょっと住民運動が起こっていて、4市の広域を目指す署名が7千を超えてきた。是非、住民の考え方、意見、生命、暮らしを守る方向で県議会も方向を示してもらいたい。

森指宿市議会議長

南薩地域の広域化について、指宿市議会の考え方をお示ししたい。

最初、県から話が出たときには、指宿市は全面的に協力するという話で進めていた。そして本部をどこにするかという問題が出たが、指宿市議会は、真ん中はやはり知覧だという話をしてきた。

しかし、どうしても本部は他のところじゃだめという話が出て、その話が壊れたため、今こういう状況になったわけだ。

住民の方からそういう意見が出ているのなら、ぜひ最初の考え方に返って、やっていただければありがたい。

私どもは、決して南九州市と指宿市だけで進めていこうという考えはない。

最初の時に指宿市でも、今日は市長が来ていませんが市長も、議会も(本部は)知覧だ、真ん中の知覧だという考えでいる。

できたら南薩が一つになれば一番いいという事なので、私どもも、指宿市に本部を持ってくるという訳だが、指宿市がちょうど庁舎を建て替えるということで、一応本部を指宿にしようと、先々は、知覧にまた消防署を作るということで、そこがいずれは本部になるだろうと議会としても理解している。

是非、住民の皆さんも、少子化の問題、過疎化の問題等あり、消防の広域化は避けて通れないので、そういう方向で進めていければありがたいと考える。

(柚木議員)

先ほど申し上げたように、県議会がこの広域行政に関われる権限は与えられていない。

それぞれ市町村の自主的な協議によって話し合われている。

県は、推進計画を立て、指針を示しているわけなので、そういう責任があると思うが、現在県は、意見を述べられたら提案するというふうに述べている。

医師会は反対だと私も地元ですから聞いている。住民から先ほど7千人という話が出たが、そういう声も聞いている。

そういう住民の声を県議会が反映するとしたら、請願とか陳情とかという制度がある。

皆さんの方で、(請願や陳情を出すといった)意思がまとまれば、議会には委員会もあるので、それなりの決定を出していくのではないかと思う。

県民B

今、指宿市議会議長さんが言ったように、みんなで手をつないで4市でやれば一番いいことだ。私らが言っているのは、時期尚早だということだ。

結局、この前提案があって、4月1日にはもう実施する。

そうでなく、地域住民の意向をよく聞きながら、いい方向に向くということであれば、そうむやみやたらに反対の声は上がらないと思う。

何にもなくて、こっちはやめた、こっちでやるというようなそんな馬鹿な行政はない。

そういうことで、非常に物わかりのいい話を聞いたので、帰って川辺で話をして、またいい方向で行くようにしたい。

県民D

なのはな館が県の手を離れてから2年近く経ち、今は芝生広場だけ延長、延長で使わせていただいている状況だ。指宿市も（引き受け手の）公募を行っているが、なかなか思うように決まらないのが実情だ。

県は、なのはな館を今後どのようにしていく考えなのかお聞きしたい。

引き受け手がいたら一番良いのだが、引き受け手が現れないまま放置して赤字だけが膨らんでいくなら、いっそ建物を壊して更地にして指宿市に返すという方法もあると思うが、そういう考えはないのか。

(小園議員)

昨年、東日本大震災の影響等もあり、当初7社の応募（説明会出席7社、5社が応募登録）があったが、全部（最終応募が）ゼロになった経緯もあり、今のような状況にある。

地元の皆さんからは、グランドゴルフ場については、来年度も引き続き使わせてほしいとの希望があるので、来年度もその方向で要望していこうと思っている。

手を上げる業者がいたら、指宿市も積極的にこの問題に関与していくと聞いている。今後も、何らかのかたちで、私もかかわっていこうと考えている。

(藤崎議員)

鹿児島市内の大きな企業の経営者の方と話すと、関心をもっている方がいらっしゃるの間違いなく、後は金額等の条件次第であり、問い合わせとかやっているようだが、実際に進みそうだという話は聞いていない。

県民E

関連ですが、なのはな館については、雨漏りもするし、そのまま放置したら防災上も危険じゃないかと思う。

確かに解体にも約8億円かかると聞いている。その辺も考えて、何とか活用できないか、県と市でもう少し協議して良い方向性が見いだせるようにしてほしい。最悪の場合は、解体まで考えないといけないのではないか。

(金子議長)

この件は、持ち帰らせていただきたい。

(上野議員)

もう少し市側が、解体なら解体と考え方をはっきりさせた方が良いのではないか。

県民 E

6月の短期間の大雨で二反田川が増水し家屋に被害が出た。JRの踏切から上流の部分が非常に狭いので、その拡幅についての見通しをお聞きしたい。

(小園議員)

二反田川が増水の問題は、県もしっかり把握している。

現在、県では、来年度予算に向けて、どのくらいの水量があるか、どれくらいの拡幅にすればよいかの調査を鋭意進めており、もう少し時間をいただきたいとのことである。

今年から、寄州除去の予算を大がかりに組んでいる。二反田川も湊川もその中に入っているので御理解いただきたい。

(下鶴議員)

寄州除去については、優先順位をつけてやっている。特に市街地に近い、かつ川が埋まっている部分が多い所からやっていく計画になっている。

二反田川については、平成24年度中に率先して取り組む地域に含まれている。

なお、寄州除去の24年度から27年度の計画については、何年度にどこの箇所をやるかを、県のホームページでも公開されているので参考にしてほしい。

(まつざき議員)

寄州除去の計画については、県で作って予算(案)を出すことになっている。

先程の議長挨拶の中にもあったが、県議会では、全ての会派が一緒になって政策立案推進検討委員会を作っており、昨年、防災関係で「災害に強い県土づくり」の提言をした。

その提言の中で、特に議員の認識で一致したのは、水が溢れ、災害の原因になる「寄州の除去」だった。

県の方では、予算がかかるとのことで、地域からいろいろな要望があるにもかかわらず、これまで寄州の除去が進んでいない状況であった。

これに対して地域のいろいろな要望を受けている県議会としても、これはどうしても特別予算を確保してやってほしいという強い意志を、政策立案推進検討委員会の提言という形で出したので、知事がそれを受け止め、今回特別に「寄州の除去」に集中して計画化されたことを紹介したい。

県民 E

私達の地区では、タヌキもアナグマもイノシシ等も出て相当な被害が出ている。猟友会にお願いしても、弾も高く補助も少ないとの理由でなかなか対応してもらえない。

ヒヨドリ対策で網に対して県から補助があると思うが、高価で重たいらしく、軽くて良いものはないか。

また、電気柵の補助については、3戸以上が集まらないと補助対象にならないと聞かすが、このあたりは何とかならないのか。

併せて、かすみ網の復活はできないものなのか。

(小園議員)

年によって大きな差があるが、指宿はヒヨドリ等の被害も多い。23年度の南薩地域の被害は、1,460万円である。被害防止対策としては、「寄せつけない環境整備」、「進入を防止する」、「進入の個体数を減らす」等の整備など、県も地元の自治体と一生懸命取り組んではいるのだが…。

(たけ副議長)

ヒヨドリの被害は、(県全体では)平成22年度とか極端に多く2億3千万円、ところが平成23年度は、2200万円と年によって極端に違う。

県としては、鳥獣被害対策として、鳥獣被害対策指導者育成の支援、技術者の研修会の開催、啓発資料の作成、被害防止施設の整備を行っている。

被害防止の施設では、進入防止柵は、県全体で、平成22年度34km、平成23年度に140km整備した。わなについても増やしている。南薩地域で106基、県全体で557基整備した。

人材育成も指導者講座も増やしている。研修会も毎年100(人)~200(人)が受講している。大事なことは狩猟免許の取得者を増やすことで、(わな猟免許取得者は)南薩地域は、(23年度県全体で)220名取得した中で17名、24年度は16名いる。

このように実践講座、わなの免許取得者を増やすこと、柵を増やしていくことなど国、県一体となって進めている。南薩地区においても県全体においても、この問題は、議会でも取り組んでいく考えである。

3戸以上集まらないと補助対象にならない件だが、国でも、鳥獣被害対策の法律をつくり、どんどん被害防止対策を行ってきているところであり、どんな対応ができるのか今後議会でも検討していきたい。

(まつざき議員)

3戸以上(集まらないと補助対象にならない)の件について、私は、昨年度所管の(産業経済)委員会に所属しており、(他県の状況を確認するために)行政視察に行った。その中で鳥獣被害対策について視察した際、国の補助事業なので全国補助の要件は一緒なのだが、柔軟に対応したケース、3戸がくっついていなくても工夫して電気柵を設置しているという話を聞いた。

市の方とも相談して、他県の状況とか調査してみたらどうか。

(松田議員)

かすみ網復活の件は、屋久島会場でも出た。鹿屋でもだいたい似たような話があった。かすみ網については、国を通して一度聞いたが、貴重な野生動物も含めて捕ってしまうので、なかなか(かすみ網復活は)難しいとの印象だ。

現実問題として、囲い込みをしながら頑張るところが出ると、(鳥獣は)別なところへ行く。手を抜くとまた帰ってくる、そういう流れなので、特効薬がなく、やり続けるしかないと考ええる。

県民D

以前は指宿にも産婦人科が5ヶ所あったが、今は、国立の指宿病院1カ所になり、病床も6床しかない。お産をする場合、病院を選ぶのが大変になり、指宿でなく鹿児島まで行かなければならなくなった。指宿病院の6階部分は空いてるので、そういう部分の活用ができないのかという思いもある。

こういう問題は指宿だけの問題ではないと思うが、県の方へ、産婦人科不足に対する問い合わせとか問題点とかないのか。

(園田議員)

指宿に限らず、南薩地域で、小児科、産科のあり方について問われている。

地域の中核病院である県立薩南病院で、その任をどうやって担っていくのか大きな課題である。

中でも一番の問題は、医師の確保である。医師会、県の担当課の方でも努力しているが南薩の方に来てもらえない。産科の医師不足が大きなハードルになっている。

県の方でも、平成27年度までの県立病院の中期計画を今進めているところである。

その中で薩南病院のあり方等も含めて、南薩の小児科、産科、急進中の高齢化社会に対応できる県立病院のあり方の検討をやっているところである。

小園議員ともこの件で意見交換しているが、国立病院・民間の医師会との連携、鹿児島大学病院との医師派遣などで、しっかり連携をとっていかないと、高齢化が進む中で、その地で、安心・安全に過ごせないということになる。

特に、産科、小児科がその地にあるのか、ないのかは、今後の労働人口というか、若い方々がその地に居住できるかどうか、子育て支援の中で、産科、小児科のあり方については一番大きな問題で、我々県議会が、県立病院局とも協議していかなければならないと思っている。

とにかく現在、南薩地域には、県立薩南病院があるわけなので、平成27年度までの病院中期計画の中で、地域の実情に応じた特に、産科、小児科のあり方というのを、十分県議会の方でも検討しながら、前に進める結果が出せるように頑張っていきたい。

(小園議員)

県議会には、医師も議員にいますので、そういう議員を中心に、保健福祉部の方で、鹿児島県の中で、どの地域に医師はどれだけ不足しているか、診療科については、今話をした小児科、産婦人科などを分析してどのような計画を立てて再配置するかなど、しっかりした計画を作っているの、またお見せしたい。

(園田議員)

今回、地域の保育連合会、PTA連合会、子育て支援センター利用者などの方々から請願が上がっており、県立病院局に、小児科、産科の開設を強くお願いしている。

地域の実情に応じて早い段階で結果が出るよう、皆さんとも協議していきたい。

県民 A

さきほどヒヨドリの話があったが、私のところでは、最近、イノシシやサルが出る。サルに、エンドウ、ミカン、ももなどを食べられてしまう。イノシシだったら猟友会で捕獲するが、サルは捕らないので、県の方でサルを捕獲してくれないか。

(たけ副議長)

サルの場合、猟友会の方も(サルを銃で撃つことに)家族の反対などもあり、なかなか実行に至らないという話は聞いているが、屋久島では、かなり数を捕り始めている。猟友会もしっかり対応している。

サル対策用の檻も設置するが、なかなかうまくいかない。

県議会の中でも、県議会議員自身が鉄砲の免許を取らないとだめでは、と言われるくらい困っている状況である。

屋久島の事例を参考しながら対応していかなければと、県議会でも協議している。

(柚木議員)

サル、イノシシを駆除する場合、被害が出たら(駆除の)申請が出て、猟友会の方が協力して駆除していたが、今度法律が変わった。

大きく変わった点は、イノシシを捕獲した場合、1頭いくらという手当を受け取っていたが、駆除をする実施隊を組織した場合、実施隊が出動したら(捕獲できなくても)日当が出るということになった。

実施隊のメンバーは、自衛隊OB、公務員、猟友会の方々に、これに対しては国からの支援もある。そうしたものを活用していかないと、被害が出た場合、タイムリーに対応できない。指宿市に現在あるかわからないが、実施隊は、各市町村に既に15くらいは出来ているので、ぜひ指宿市でもそうした対策を進めていただきたい。

県民 F

今日の南日本新聞にも、高校の統廃合で山川高校のことが掲載されていた。指宿市には、山川高校と指宿高校、指宿商業高校がある。私も、「山川高校の活性化について語る会」にこれまで2回出席した。

山川高校の場合、農業主体であることもあり、(生徒の減少に対する)なかなか有効な手段が見いだせない状況である。

先日語る会の中で、県のほうから、生徒数が少ないから、もう廃校のような感じのことを言われたらしいが、農業、商業関係の高校は地域に密着しており、何とか残したい。県議会では高校再編についてどのような見解をもっているか。

(堀口議員)

公立高校が、阿久根に2校、長島地区に1校あった。生徒数が減少して運営上1校でないと成り立たないと言われ、3校を1校に統合した。

その間、1市2町でいろいろあった。

大事なことは、後からいろいろ言っても遅いので、廃校後の跡地利用も含めて地域で十分時間をかけて協議することだ。

(中村議員)

私は阿久根市区・出水郡区選出議員で、(阿久根市・出水郡での)高校再編の第1号だった。長島高校が定員割れをして廃校寸前という課題があり、長島高校、阿久根農業高校、阿久根高校の3校が一緒になって鶴翔高校になった。

その当時、公立高校再編検討委員会が開かれ、その中間報告で1学年5クラスを目処に統合したいとの説明があったので、統合は避けて通れないのではと考えていた。

しかし、実際に県教育委員会から統合が発表されたのは、阿久根高校創立80周年記念式典が開かれた1週間後で、事前に説明がなかったこともあり、高校のOBの方からもお叱りがあり困ったことがある。

方向としては子供が少なくなる時代なので、統廃合はやむを得ないと思う。

鶴翔高校も総合学科を設けるなど学科編成をして進めてきたが、それでも定員割れして募集は1クラス減である。

時代の流れであり仕方のない部分もあるが、現在、大隅の方でいろいろ検討されている中に、中高一貫教育ということがある。地元の声を教育委員会も聞こうということで、そういう話も出てきている。

あくまで地元でどういう教育体系や学校の有り様にするかを十分に検討され、その主張を県の教育委員会に、もの申すということが大事である。

もう一つ大事なことが、廃校跡地の利用がほとんどなされていないことである。

高校は、地元のととても良い場所に建てられている。

阿久根高校も海が見える1等地であるが後の利用が決まっていない。長島高校も高台の良い場所にあるが、自衛隊の訓練とかで季節的に利用されることはあるが、後の活用が非常に問題だと思っている。

こちらでも、統廃合期に当たっては、跡地の利用を含めて検討する方が良い。

また、どういう特徴のある学科を作るかということも十分検討する方が良い。

県民 F

山川高校の活性化の話合いの中で、山川高校が作る無農薬の農産物等を販売し人気もあるが、その売り上げは全て県に納入すると聞いた。

一方、指宿市には、指宿市立の指宿商業高校があり、「株式会社 指商」という会社を全生徒が株主となって設立、運営し、「指商デパート」を開催したり実践的な勉強をしている。また、そうした収入は、自分達の裁量で研修や勉強に自由に使える。

会社を経営すれば、儲かることもあれば損をすることもある。正に実践的な勉強をしている。

山川高校でも、指宿商業高校と同じように、子供達に自主性を持たせ、良い農産物を作り、自分達で販売し、売り上げを自分達の研修や勉強に使えるようにするという提案を、県議会から県教育委員会に対しお願いしてほしい。

そうすれば高校の活性化にもなり、子供達も魅力的な勉強が出来るのあればということで、生徒も増えるのではないかと考えている。

(松田議員)

指宿商業高校に私のかつての教え子がいて、指商デパートの話もよく聞いている。

農業や工業等の専門高校は、とても重要だと思っている。鹿児島県に残るであろう子供達であり、将来の鹿児島県を背負っていく子供達という考えが一つあると思う。

一方、普通科系の高校で、あまり名前の知られていない高校は心配である。

平成24年度で、17,000人いる中学卒業生が、8年後には、2,000人近く減る。2,000人減るとするのは、高校がいくつか減るということである。

そういう物差しを持ちながら、いかにして指商デパートみたいな、子供達が大好きになるような学校を作るかという学校側の姿勢が問われてくると考える。

(小園議員)

これだけ褒められたら、指商デパートの社長さんからも一言発言を。

県民G

指宿商業高校は、鹿児島市内からも30分という地の利がある。

私が、指宿商業高校に事務長として勤務させていただいた時は、校内がガムだらけで、裏に行けば何でもありで、学校を変えないといけないと感じた。

最初の土日から草刈り機を持ち込み、藪払いや掃除を土日にも徹底して行った。

当時、情報処理1級などの資格を3種目以上取得して卒業する生徒は5人以下だった。このため、学校の環境整備は私が担当するので、先生方には、生徒の背中に資格という武装をさせてほしいとお願いした。

財政課や市長にも直談判もした。高校は人材育成の場であるので最優先でいろいろやった。その結果、国公立大学にも7名受けて7名合格。1級の資格を(3種目以上)取得し卒業する生徒も、30名位出るようになり、ありがたいことに結果が出たと思っている。

篤姫ブームも味方し、生徒指導の一貫で今泉の清掃も率先して生徒とやった。

そうすると暴れん坊達も味方になってくれて、学校を変えていってくれた。

鹿児島県が薩英戦争で負けた翌年に英国留学させたように、鹿児島県独自で人材育成の事業はできないものなのか。例えば南極観測隊に鹿児島から派遣するなど。

議員は民主主義国家の基本なので、議員の数を減らすと良くない。地域も寂れていく。議員の数は重要である。議員をこれ以上削減しないでほしい。

県議会も市議会も女性議員の数が足りないと思う。もちろん法律等の問題もあり難しいが、定数と別枠で女性議員を5人選出できるといった事はできないものか。

先程出た、二反田川も鳥獣被害対策も、議員の皆さんの力が必要なので、どうぞよろしくお願ひしたい。

(岩崎議員)

子供達にとって体験する学習はとても大事だ。

指宿商業高校の入学者数を見ると充足率100%、これだけ素晴らしい活動をしているからだと思う。

山川高校、指宿高校の話が出ているが、現実問題として子供の数が減っていく。10年後には、県内中学校を卒業する子供は2千人減るので、いかに子供の事を考え、特色ある学校作りをするかである。指宿商業高校を見ればよくわかるので、他の学校も頑張ってもらいたいと思う。

(松田議員)

英国留学生ではないが、県の事業で、12月4日からだったか鹿児島県の青少年約30名を台湾に派遣する予定である。県内の企業経営者が台湾まで随行すると聞いているので紹介したい。

(上野議員)

今月の行政視察で、南薩地域の消防広域化の話(総務委員会の)議員は聞いている。

新幹線が開通して鹿児島中央駅周辺はすばらしく良くなった。

先日、指宿と枕崎地区の建設協会の会合があり、私と、小園議員、柚木議員、園田議員が出席した。その中で、新幹線が開通して指宿方面に潤いがまあまあ出ているのは大変なことなので、まずは指宿方面の建設業者が頑張っていて、指宿の観光を大きくさせ、枕崎、加世田、川辺を牽引していかないといけないと申し上げたことを報告したい。

(まえの議員)

今日は、根占港から南九フェリーで渡ってきた。このフェリーが開通して大隅半島と薩摩半島の繋がりが良くなった。フェリーも満車で車も15台乗っていた。

こういう交通網ができてありがたいことだと考えている。

新幹線の開業効果が、大隅半島にまでなかなか及ばないので、私は指宿の方々を見て羨ましく思っている。新幹線で来たお客さんが大隅半島に回ってくるにはどんな対策があるか、日々いろいろな方々と話している。

かつては、指宿から佐多岬に渡り、日南に抜けるという新婚客が25万人いたということである。そのリバイバルということで、今年、県でも予算を組んで佐多岬を新たに観光地として作り上げようという話も進んでいる。

先程学校再編の話が出た。大隅半島では、ほぼ1年弱かけて高校をどうしようということ、地元の方々も巻き込んで協議がなされ、一定の方向性が出た。

知事も、高校再編は地域振興の視点を加えて検討するというので、地域の各界の代表、首長、地域の方々、PTAの方々、小中学校の先生など、いろいろな方々が参加して検討会議が開催された。

8年後には、2千人減るわけなので、高校を今後どのようにしていくかは、地域の方々の意見を抜きにしては考えられないので、どう残すか、どう再編をするかについて、積極的に参画していただきたい。